

保護者への連絡、上手くいっていますか？

保護者なら子どもの学校での様子は知っておきたいもの。ましてやトラブルが起こった時など、詳しく知りたいと思うのが人情。そして保護者への連絡の仕方一つで担任として信頼されるかどうかが決まる、といっても過言ではありません。場合によっては新たなトラブルへとつながることも…。

それが子どもの指導にも大きく影響するとなれば、しっかりと取り組みたいもの。さあ、いくつかのヒントを紹介しましょう。



○保護者と子どもを育てる良きパートナーになるために

ステップ1「連絡をはじめ情報の提供はいろいろ」

子どもをよりよく育てようとしているのはあなただけではありません。保護者はわが子のことをいつも考えているもの。だからこそ、保護者と教員は子どもを育てるパートナー。まずは学校での様子を保護者にわかりやすく伝えましょう。

小学校で保護者が安心するのは連絡帳の存在。学校や学級での様子がよく分かるように工夫して伝えましょう。学級だより(学級通信)も楽しみにされていますよ。担任としての思いも熱く語ってくださいね。

ステップ2「学級だより(学級通信)を充実させるには」

ここで提案です。学級だより(学級通信)が担任から保護者への一方通行になっていませんか。時には作文に綴られた子どもたちの思いを掲載する等、生き生きとした様子が感じられる内容を工夫するといいですよね。

さらには保護者の皆様に、例えば子育てに関するエピソード等の原稿依頼をしてご提案やご意見を掲載する等、保護者同士のネットワークづくりにもつなげる。そのような工夫もあっていいのです。

ステップ3「子どもの頑張りを連絡!!」

仕事から帰ってホッとしているところに先生から電話。ちょっとドキドキしながら電話に出ると「お母さん。〇〇君、今日の授業でこんなに頑張ったんですよ。うれしくて、つい電話してしまいました。」という内容。あなたがお母さんならどうですか。わが子のことのように子どもを大切に見てくれている。こんな先生なら安心しません

か。そうです。問題が起こった時だけの連絡では親としてもつらいもの。信頼関係が築けてこそそのパートナーです。



ステップ4「問題が起こった時の連絡は？」

子ども同士のけんかやケガ。キチンと保護者に伝えたいもの。電話で連絡？それとも家庭訪問。迷った時は家庭訪問。顔をみて誠実かつ正確に伝える。これが大切です。

先に子どもを帰してしまった。しばらくして保護者から抗議の電話。よくあることです。子どもは帰宅すると、まず学校であったことを話すもの。親に叱られたくないものですから自分の都合のいいように話すことだってありますよね。誤解が生じるのも領けます。一旦こじれた話をもとに戻すのはたいへん。

子どもを家まで送って行って、直接保護者に報告をしてはどうでしょう。説明内容に間違いがないかを子どもに確認しながら話せば保護者はその場で理解できます。



ステップ5「両親が共働きで夜しか連絡できない!!」

両親共働きなどにより、夜間にしか連絡できないこともありますよね。もちろんトラブルの内容にもよるのですが、緊急性や丁寧にお伝えする必要があると感じた時、まずは緊急連絡先に電話。あらましを伝えた上で、学校にお越しいただくか家庭にうかがうかを希望する旨伝えましょう。

心配させるだけの電話ではかえって迷惑。保護者の立場に立って、まずは安心していただくために連絡しましょう。

